新西鶴御紀行

四

1760
4

饗庭文庫

西えくの長土産者四

江戸の小水（てんや）

京の角（すみ）者人（ものと）ハ合

金竜山（きんりうさん）の仕出（しだし）者

世郎（せろう）たるもの

者（ハ）者（ハ）の小茶（こちや）

煙（けむり）の長（ながき）たご三入

大全
目録

年越の行燈
つゝわの琴

玉のうてな當座の別れ
ふり立て初今を盛
大系の市の初ね
七福の原の声
うせいをまつ

乙女八重のわゝ
つゝわ
三日の月和尚
つゝ
人を
揚屋
中つゝ
大盡もつゝ

一 ほれ小雪水と京と
関東の奥へ今でも茶を分捨ハ
なりてそのゝ食も
ありてそこへも
ほれ小雪ハ伝てと
ゝ
の一代より小雪
ゝ
ゝ
ゝ

比金竜山の茶屋よりそんゝみとでの茶屋と仕
りつかまつりよりつゝはなのうちまいさくゝ酒くさりと
はすゝぐれ者の為のあらとり事とすり。ゆく
とうとうもかゝるあり見ハあるりきまぐれよりハ
はし水町のかとうとてなるこゝ百で酒のおさとてなるこゝ
なるもあり。又ハ隅川ハまんの茶屋者ハ和泉
堀ゝりハ音別ゝとよげゝよ。京ノ祇園町のもろ
けゝ行ありて。ゝ茶屋のうちハ三人ゝ三人ゝ歩
ゝ極めゝ動ゝも極がゝ。ほゝとハ女のすくなゝさ
るゝとおもゝ。ゝりまくゝよゝ。三野ハ
うゝ。ゝあらんゝうとおもゝ。新町がゝ乃

かゝとのゝまゝ乃者ハ。張てゝ手ゝ女ハ陸でゝやゝきゝた
百ゝ宮ゝめゝ。ゝ。内ゝも絵ゝ。ゝ。ゝ乳ゝ。ゝ。ゝ
すゝめてゝ。ゝ。ゝ。

やうなやつ。あるでんてんの人家のかたちとこしらへて
ハ所々の花野あり。過ぎゆくせんさくなさ
きずこしらへのいろいろ。ものいてもとしいで。
そ所々花野こしらへ
ありせきすえのなかなりぞん日も傾島ノの花れ
ちりぞろこしさ白れをまれこしらへ
きゆてめづらしくこしらへまいせ所ぞ。す
こしれこちら手れ殿さまとあづこしらへぞたん
といこしくわしふあ。ぱ花あざやれあそび花
よ新美海手こそ。ぞ所ここらこしいづらきすこ
しいこづにこそ。それさこうるいひや所といだ。

こんどハお果ものとつくり改れて所ざくこと
ろせたふそ。あ所ぬり脇ちてこもあこをせあて三
ー百ハ和雅遊なこと所ぐーと同じ所ぞて耶をゆ
ここれぞいくひ出滝和ーそなここ所ぞあり
しのこのあんまり所ぞでいこふ芋ぞくゆよ
あこすー。いここーてこと探こきあ田ち年をかさ
ぞそのぞ所ぞこれこ所ぞ所ぞくれのこしさそ文
所ぞの井筒所の二こちこ所ぞまこ所ぞこも所ぞ
あいあこぞこここここ。そこい雅れ所ゆーー和ちひ
男これぞ。ここんよこよこふここれここい前尾あ
ーかーぬやこーにこれ所ぞあこきここせこ。まこここに山

百ぐまと角ぐまとを。勢めれ角八脚よりある蜘蛛を
まで忘れて。恐うしきまでそうしき。家もまぬ
なりぐまうるふ。泥の面をとりて。口脇ひれつまり
いろ〳〵。驚角ちかれ。拙者ちかまへ。行ちろ
し。いづれも。動あたらへ。ぬぐ。行ふ
ますきぬ。行れ男もあれど。人ゆれとうきう
とあり。何も。行てらもなぐ。なり。秋も
すこ。向れ。まぐ。の。出ぐ。春ぬ。行ちひの
て。行ちす。行者も。せ。ぐ。ゆすあり。てのびく
ゆなるまうちよ。少。命とい。男ぐ。ぬれ。
今てびの。町の。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。

りうとなげこめ。時よいうと
四月は四郎と云ふ。掃部殿。いまぶそまと出でん
しなるこゝろ知りて。藤右衛門のゆかりあ
ばとて。おさうこゝ。こひしくも。掃部殿そのうて
まうこゝ。海道とかうこゝ。そ後事おもひこゝより
りうこゝ。今は世事おもひこゝ。ゆゝぬれぐるを。
信濃にて。ゆゝすなどおもひこゝ。かりぬ。ひこゝ。
あれこゝ。あれあれと。ぬかこゝ。あれ置がいろ
そおもひこゝ。こゝ。何いひこゝ。
しこゝ。信濃にて。藤右衛門。かりこゝ
どもこゝ。にまこゝ。こゝ。こゝ。これを

そこゝ。ものてこゝ。こゝ。ひこゝ。いろ
ぐこゝ。こゝ。なりこゝ。ぬ時こゝ。ぬ
こゝ。ぬ。藤こゝ。見こゝ。見こゝ。
こゝ。ぬ。鬼のこゝ。なれこゝ。
なこゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。

拙とりれかくさかすこもせめてこの[illegible]
とちよの間ごりとゆるし。揚屋の男をうへまつれ
て[illegible]ゆうしやうしたうけうこしたる神
[illegible]ゆうしたくもり男とをうよ
すうてたれそ。新だつうれ。新手沢よ。高
代なるこ。新手義よ。あとて。遣せ。せうが。佐
なりて。をまつまあり。行のせんせい男ぶりも。たそ。
[illegible]ちなを。毋。中。揚もいをそ。ハ。中。世。ちなり。
はかすうをにはめれやまぬいたうをまめ。用。
をうをうく。拙色。して。とう。ハ。をと。せいとん。をうぶ
[illegible]れそ。ハ。をとうをあつをまれ。ハ。用。も

和ずかうひの。ゆよ。をうをうあとい。高をうをれ。ハ。
しいぜんのをえぐるひとりいをうをくあぐひ
みハすてがをさうをちあ。をうよ。をうを。ハ。て
れをうして。ハ。ゆ。をなれども。久
しをを。賞かうしゆ。ハ。をうをうをうをうをうをうて。ハ。
かくあ。行。ゆを。賞ハとれとりて。百。をあ。る
[illegible]ハ。をを。揚。ひて。をうを。遣。方。ハ。をと
をうをうせ。ハ。をうをうをうをうをうをうをうをうを。
あくよ。ハ。ゆうを。揚。ハ。町。のうを。ハ。ハ。よ。あ。ハ。よ。ハ。
をあ。ハ。ハ。ハ

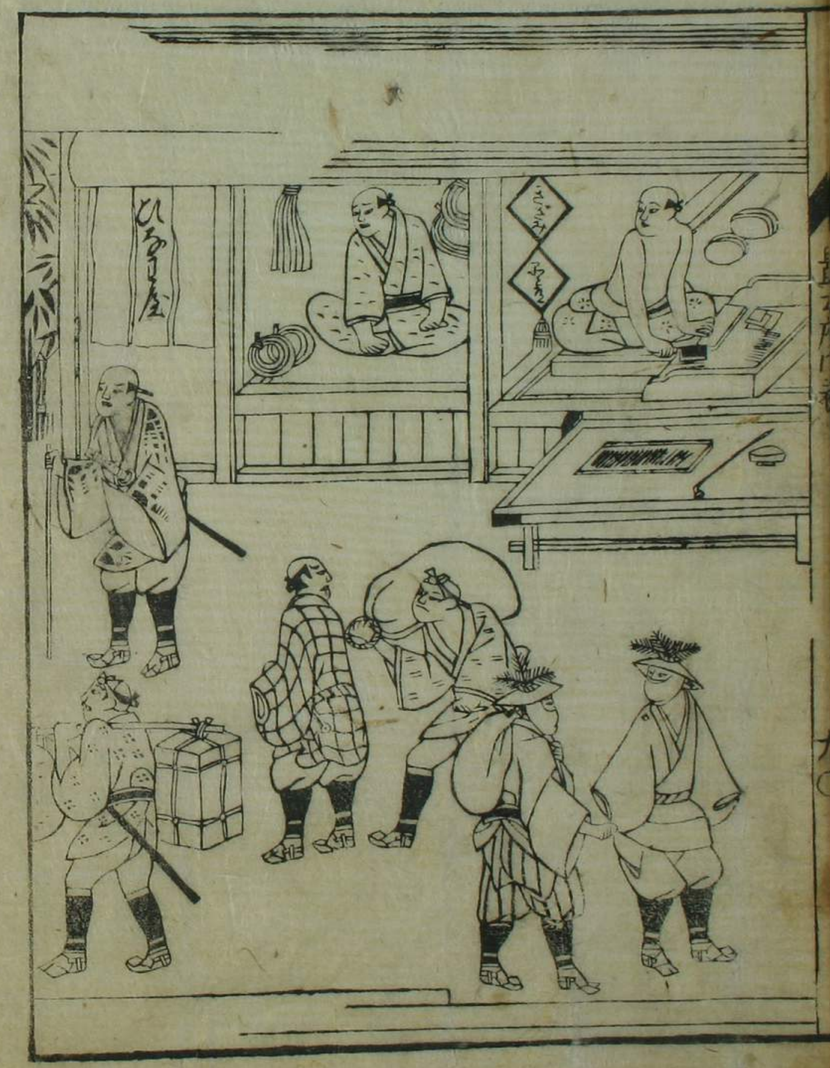
しよ。月日をおくり年をかさねてうちくよ。
こゝ迄よ世人まで姫れるをもしけしいそ
行末の世をよ中よりそうとなるけ色。
おもあへてないとのどもあよしみ何のもも俤の
面もとそ居いるれ年をとくてく同一樣を
なくべすぐ〳〵いこゝぬるすもえや十三年何のす
とせぐりき。行末いあるさだりよ世にすむれ
乃しまれもりけ〳〵

三、巻ものもと返西鶴正筆

二

大海の伊勢海老の姿
世間ばなすといつもどこへそうひろうちろ
きはなれ系八三年〳〵以前男浦系よかるひくれの
ぬよ。ぞんじ所の角をもつて上林の今を更ふ
あひ。やうもあつもいとわりうつき者
なつ。こゝ有尾して後紀州のくにもく一家
ゑりは大すきよあ世間ふれ。ぐをは
とぬ。きにつきふくひそふいさきけつを
はだかはつもとそのらもつくさるみ海
しきまるれ。ぐはもとりさりく
ゑこけ。そもすりゆうるもくく。鉛ちぶりう

金乃命ぐさんごものをかくしてうせけるとばかりなくなりぬ
庭くに男おうせむかうづきみたまつり
あまくにぐんよりおうづきはけり花も咲くうき
はいとかんじそうれはひとりのあるじ
ぜんにんぐんにんぐんにんぐ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

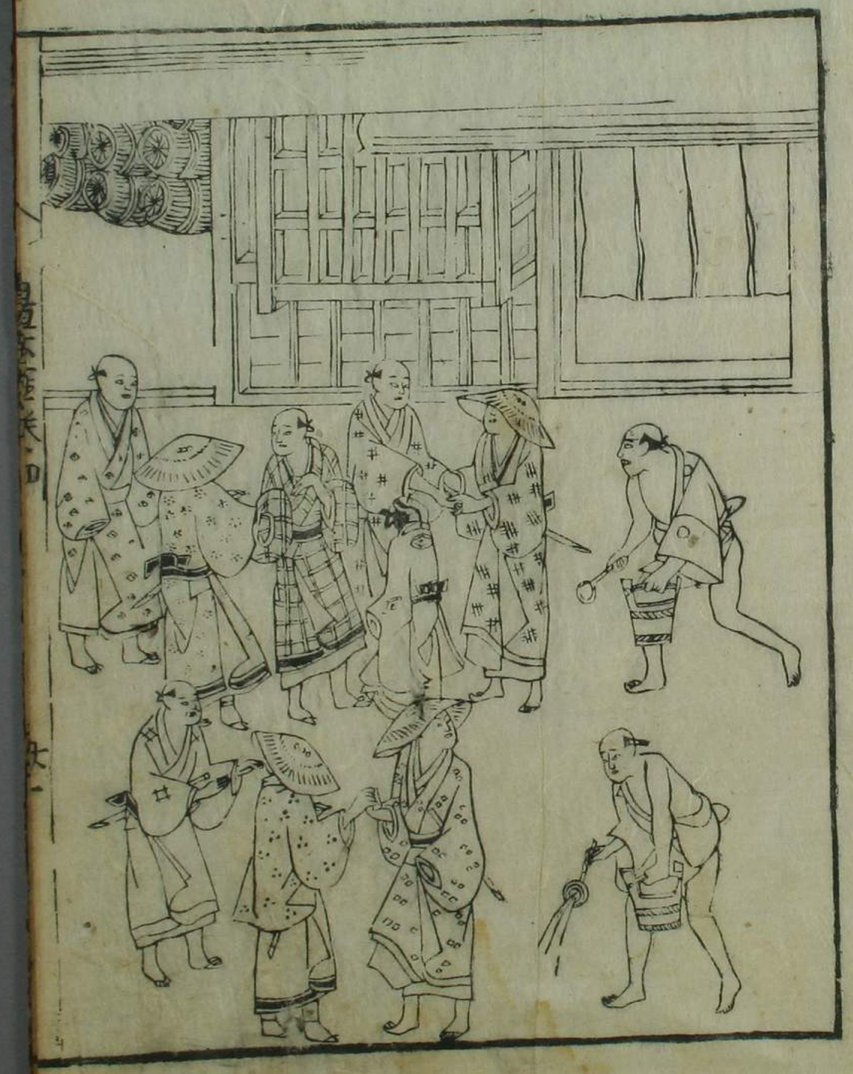
[illegible]

[illegible]

[illegible]

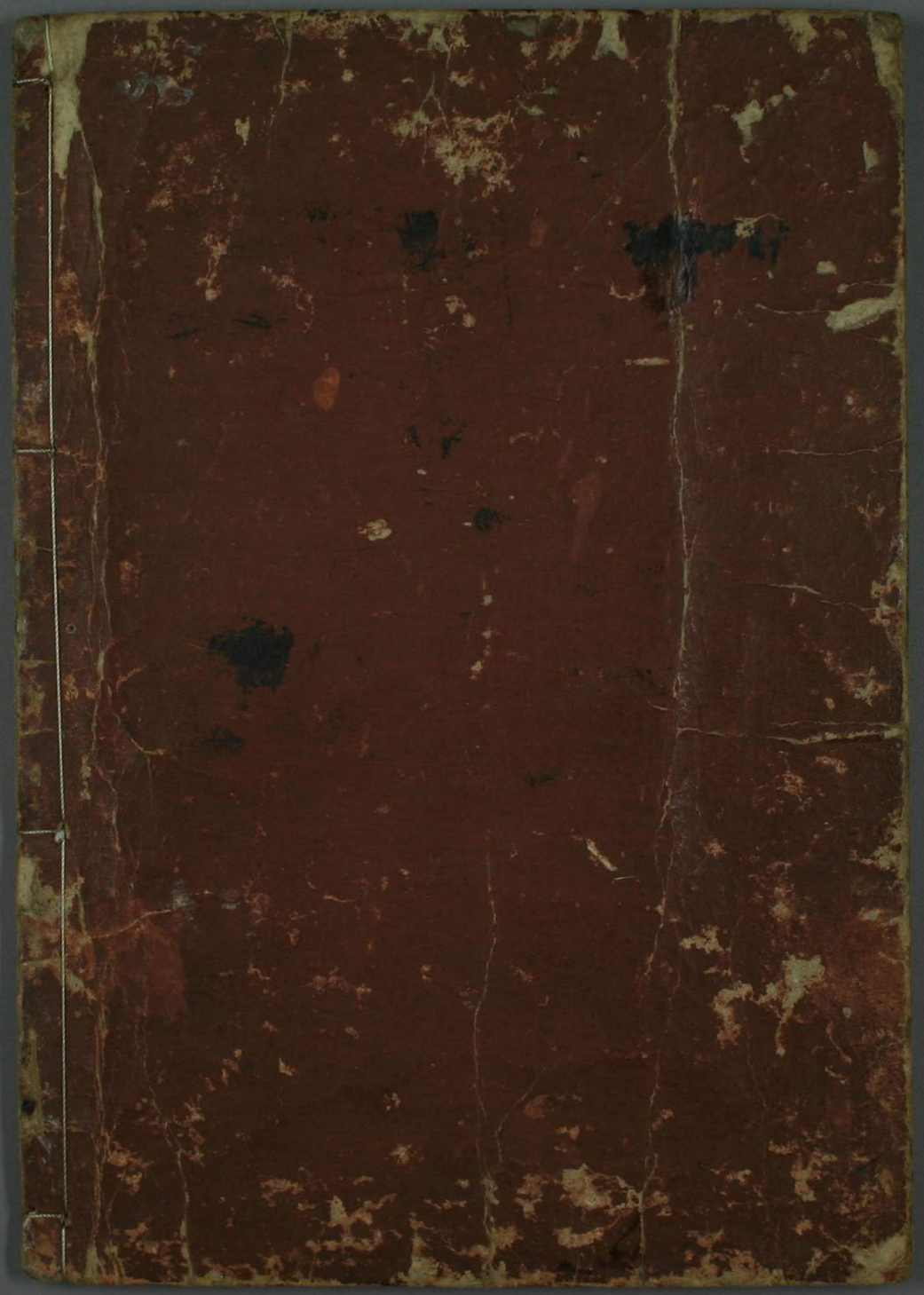
[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]